

総評

■街並み景観部門

応募総数は72件と、予想を超えた非常に多くの応募があり、大田区の街並み景観に対する地域の高い関心と可能性を感じた。応募内容としては、建築物やみどりを対象としたもののみならず、複数の要素で街並みを構成するものや地域のシンボルとなる歴史的建造物、公共空間(道路・公園・河川等)を中心としたものや工場建築を始めとした地域の特徴的な景観を創出するもの、そして、歴史的文化的な風景を継承したのから現代の新しい景観創造に至るものまで、非常に幅広く質の高い応募内容であった。さらに、応募物件の立地をみても、大田区内からまんべんなく応募が出され、大田区の景観の多様性を感じることもできた。

審査過程としては、相当数の応募があり、難航を極めたが、まず事前の書面審査により評価の高い物件を選んだ上で、第1次審査を実施し、詳細な議論を経た結果10件が候補として選定された。その後、現地視察を行い、実際の佇まいと、周辺環境も確認した上で、最終審査を行った。各委員による白熱した議論の結果、最終的に表彰対象として5件が選定されることとなった。

選定された5件を概観すると、大田区の特徴がよく表れた地域のシンボルとなる工場建築や、地域貢献空間を有する流通施設、リノベーションで新たな価値が加えられた歴史的建造物、震災以降の住宅地形成の歴史を伝える住宅地の街路景観、大田区の地形的特質がよく表れた池と一体の住宅地景観といったように、新旧の時間軸、用途やテーマについても多様なものが選定された。

また、惜しくも選外となった物件についても、大田区の特徴的な歴史的資産や土木構造物、戦前戦後の住宅や住宅地を新たにリノベーションしたもの、緑を保全・連続させるための挑戦的な試みなど、大田区の街並み景観を豊かにする試みも非常に多く見られており、次回以降の更なる応募、および、さらなる豊かな街並み景観づくりが継続的に実施されてゆくことが期待される。

今回は第1回ということで、「大田区での良好な景観とは」ということを改めて考える重要な機会となったが、今回選ばれた物件もそうでない物件も、大田区の街並み景観の維持・向上に向けて、さらなる保全・活用・整備改善・創出活動が行われてゆくことを期待している。

(委員：野原 卓)

■景観づくり活動部門

応募総数は18件と、多くの応募があり、大田区の景観づくり活動の盛り上がりと積み重ねが感じられた。応募内容としては、近世から近代に至るまで、幅広い時代の歴史的景観を継承し続ける地域の維持保全活動や、住宅地を中心とした景観の維持保全活動、地域の活気ある商店街での景観づくり活動や、街路樹や植栽を契機とした環境の維持管理活動、地域のアイデンティティと活動の風景を受け継ぐお祭りなど、様々な活動がエントリーされた。

審査過程では、まず事前の書面審査により、評価の高い物件を選んだ上で、第1次審査が行われ、ヒアリング調査候補団体として5団体が選定された。その後、ヒアリング調査及び活動場所の景観を確認した上で、最終審査が実施され、詳細な議論を経た結果、最終的に表彰対象として2団体が選定されることとなった。

選定された2団体は、大田区を代表する景観資源の一つである洗足池周辺での景観維持・向上活動を行う団体と、地域密着型で非常に丁寧な植栽の維持管理活動を行う団体であり、景観づくり活動における多様なアプローチの存在が見出されたが、いずれも、地域自らが自主的かつ積極的に景観づくり活動にそれぞれの工夫をもって取り組み、かつ、地域の多くの人たちを巻き込みながら、公共や地域に向けての視点を有する活動、そして、それが継続的に進められていく可能性を感じる活動が評価された。

また、選外となった活動の中にも、非常に積極的かつ魅力的な景観づくり活動が多く見られた。同時に、表彰対象となった活動団体を含めて、活動するにあたって様々な課題や悩みがあることも分かり、景観づくり活動育成のための新しいサポートの仕組みづくりが、今後何らかの形で必要であるということも感じられた。

受賞団体には大田区の代表的な景観づくり活動団体として、益々の活躍を期待するとともに、選外となった活動団体についても課題や悩みを解決し、引き続き大田区の景観づくりを継続的に実施し、大田区の景観づくり活動の機運がさらに高まり、豊かなものとなることを期待したい。

(委員：野原 卓)